

論文を読む

AIRIS 2013年2月21日

吉田 真紀子

亀田総合病院 感染管理室

論文の批判的吟味

使用する資料

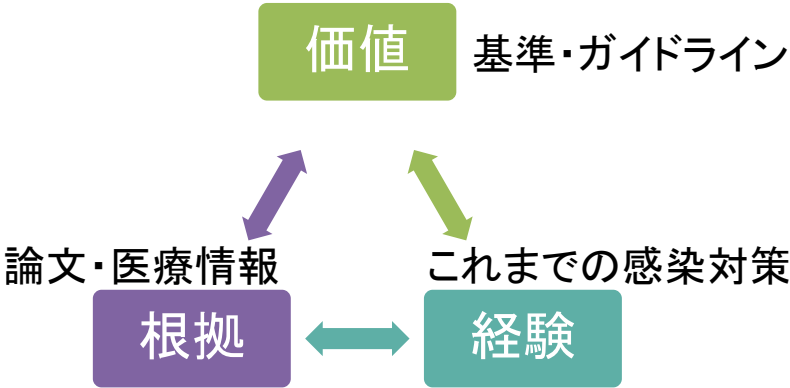
- 山梨県A病院におけるVanB型バンコマイシン耐性腸球菌集団分離事例、森山和郎 他、環境感染 21(3)168-174, 2006
- 「はじめてケースコントロールシート」

出典: The SPELL

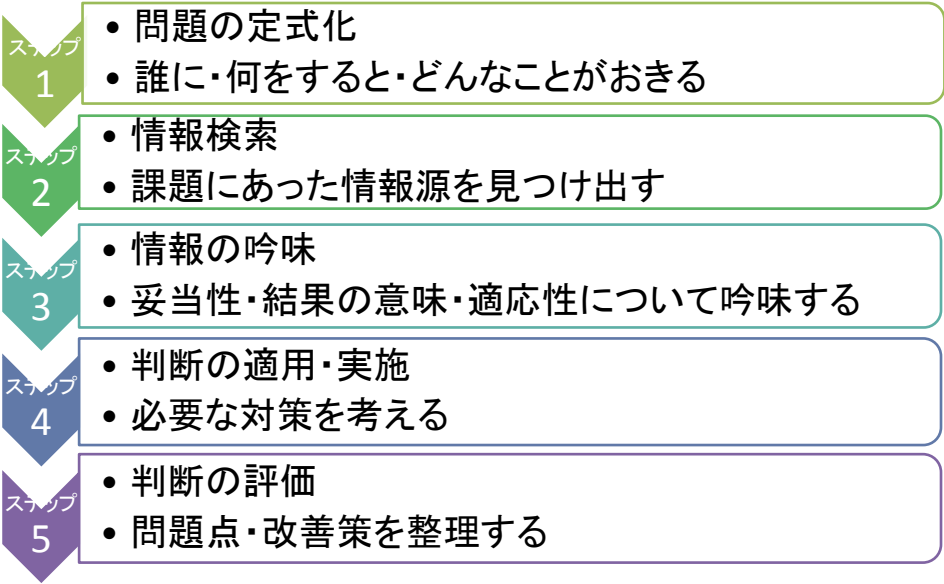
<http://spell.umin.jp/index.htm>

論文を使う

- EBM (Evidence Based Medicine)



EBMの5つのステップ



1. 論文のアウトカム



2. 論文の対象者

- 症例

- 対照

3. 曝露因子

- どのような曝露因子が検討されているか
- その曝露因子は適切か

4. 症例

- 症例の基準・定義は明確か？

5. 対照

- 対照の基準・定義は明確か？
- 対象の選択に偏りはないか？

6. 結果の評価

論文から抽出してください

要因:	症例	対照
あり		
なし		

オッズ比=
95%CI= ~

症例と対照が10倍だったら？

要因:	症例	対照
あり		
なし		

オッズ比=
95%CI= ~

症例と対照が100倍だったら？

要因：	症例	対照
あり		
なし		

オッズ比=
95%CI= ~

ディスカッション

- 1. それぞれのオッズ比を比較する
- 2. それぞれの95%信頼区間を比較する
- 3. グループでディスカッション

知っておきたい基礎知識 サンプルサイズ

- 母集団と標本
- サンプルサイズ(標本の大きさ)を意識する
- サンプルサイズが小さすぎると、結果を読み誤る
- 必要なサンプルサイズが大きすぎると、調査が大規模になる

適切なサンプルサイズとは

- 差の証明に必要な統計学的パワー(検出力)を確保できる大きさが必要
- 実際のサンプルサイズはコストや時間とのバランスで決定される
- 適切なサンプルサイズを確保することで、結果が偶然誤差の影響を受けるのを最小限にできる

症例対照研究における サンプルサイズのおえ方

- 症例:対照の比は大きいほど統計的に有意になる
- 対照の人数が増えればその分調査にかかるコストと時間を要する
- 症例:対照は1:4以上にしても統計学的パワー（検出力）の上昇はわずかである
- 症例と対照は背景をそろえる必要がある